

## 編集 後記

第66巻第2号には原著論文3編、公衆衛生活動報告1編が掲載されています。本号も、母子、精神、高齢者、そして医療政策と幅広い分野・領域からの報告となっています。原著論文1編目は、全国規模で無作為抽出された対象者の個人及び地域レベルのデータを用いてマルチレベル解析を実施し、乳幼児期の適切な予防接種行動の関連要因を報告しており、乳幼児期の予防接種促進に資する研究と考えられます。原著2編目は、親が亡くなった後、精神障害者の当事者が地域で生活していくために親自身が行っている準備の内容を具体的に示した報告です。質的記述的研究法を用いた検討によって、親自身が当事者の自立生活を意識化することの重要性が示唆されています。残る1編は、要介護リスク高齢者とポジティブ思考との関連についての報告です。要介護リスク高齢者では生活満足度や自尊感情等が低い傾向が示されており、今後の要介護リスクの要因研究にも示唆的内容を含んでいると思われます。公衆衛生活動報告では、医療計画策定に向け入院患者の受療動向を把握するために栃木県で取り組んでいる調査について報告されています。患者単位の悉皆調査の実施とその限界について詳述されており、他自治体にとって参考となる事例であろうと考えます。いずれも日本の現在の（そして将来の）公衆衛生学的関心事に着目し、実践への示唆に富む報告です。

さて、日本公衆衛生雑誌では英文での投稿もお待ちしております。昨秋、福島県郡山市で行われた第77回日本公衆衛生学会総会の English session では52編の口演・ポスター発表があり、会場では質疑も活発に行われ、実に盛況であったと聞いております。国内の公衆衛生学的関心事を国内の研究者や公衆衛生関係者向けに母国語で記録し、将来にわたって共有することの重要性は言うまでもありませんが、英語を用いて国外の関係者に向けて発信すること、さらには国外における公衆衛生学的関心事を受け入れ、共有していくことの重要性も論を俟たないと思います。本誌がその一役を担えるよう、会員の皆様からのさらなる投稿（英文での投稿を含む）を心よりお待ちしております。

(丹野高三)

## 次号予告（第66巻・第3号）

### 特別論文

活動展開技法モデル「コミュニティ・アセスメント」の提案：第6期公衆衛生看護のあり方に関する委員会活動報告……大森純子，他

### 原著

独居高齢者の配偶関係からみた類型が2年間の健康状態の変化に及ぼす影響：首都圏高齢者の地域包括的孤立予防研究（CAPITAL study）より……橋本由美子，他  
乳児院、児童養護施設における食物アレルギー児の在籍状況および給食対応の実態：ガイドライン・マニュアルの有無別の比較……森久 栄，他

### 資料

地域高齢者における「食事関連 QOL 尺度」とその短縮版の計量心理学的特性……岩佐 一，他